

2023 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [山口市立湯田中学校] 担当教諭名 [竹中大祐・菅野鮎美] (生徒会 16名)
 相手国・地域 [エストニア]
 海外学校名 [Tamsalu Gymnasium] 担当教諭名 [Reena Curphey]

■実施教科・時間数について教えてください。

アートマイルに関連した 実施教科・時間数	教 科	単 元 名	時間数
	生徒会活動	アートマイル	28

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	つながる世界
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	<p>Let's care for our limited resources and take responsibility for consuming and our everyday actions. Let's build a community where we want to live, where everyone is involved in creating the better life for themselves. Let's seek connections with the world and create a beautiful planet together. Happiness for all. Let's treasure everything.</p> <p>限りある資源を大切に、消費と日々の行動に責任を持とう。私たちが住みたいと思うような地域社会を作ろう。世界とのつながりを求め、美しい地球を共に創ろう。すべての人に幸せを。すべての物は宝物。</p>



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
相手側の課題や実践している取組を知ることで、視野が広がり、異なる視点からテーマについて考えることができた。自分たちの住む地域の課題をより自分事として捉え、地域のために貢献しようとする主体性を伸ばすことができた。	生徒の活動可能な時間が限られていたこと、相手校と活発な意見のやりとりができなかったことから、テーマについて十分に議論を深めることができたとはいえない。壁画のデザインを考える時間も十分に取れなかった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
活動を通して、世界の課題を身近に感じ、SDGsに貢献したいという思いが強くなった。それにより、自己の生活を見直し、自分にできること(必要以上の物を買わない、食べ残しがないようにする、節約を心がける等)に取り組むようになった。	フォーラムでやりとりする中で、相手側への関心が高まり、様子を調べるようになった。当初は生徒だけで議論を行っていたが、途中から教師も共に考え、議論に参加するようになった。拙い英語でも伝わることが分かった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
調べ学習 テーマ学習	6月 7月	・自己紹介。 ・テーマについて生徒が調べ学習を行った。 ・調べたことをもとに相手校と話し合いたいことを考えた。	・相手校が決まり、相手校からの自己紹介を見て、活動への意欲が高まった。調べ学習に主体的に取り組んでいた。	生徒会 5
共有 相手と意見交換	9月 10月	・相手校に議論したことを伝えた。相手校での議論の内容をもとに、改めて話し合いを行った。	・相手国で行われている取組を知り、日本と相手国の違いに驚いていた。また、相手側で行われている取組を自国に取り入れられないか考えるようになった。	生徒会 6
融合 メッセージ作成	11月	・「共有」での議論の内容をもとに、メッセージの内容を議論し、相手校に提案した。	・こんな未来になってほしいというイメージをメッセージにする過程を楽しんでいた。	生徒会 4
創造 壁画制作	12月	・メッセージの内容をもとに日本側のデザインを検討し、相手校に提案した後、壁画を制作した。時間が限られていたため、相手側のデザインは壁画到着後に日本側に合わせて作られることになった。	・メッセージを表現するため、協力しながら制作に取り組んだ。	生徒会 10
評価 振り返り 自己評価	1月 ～ 3月	・アンケートでこれまでの活動をふりかえった。 ・壁画を鑑賞した。	・活動してきたことが形になっているのを見て、達成感を感じたようであった。今後も海外の方々と交流をもちたいと感じた生徒もいた。	生徒会 3

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化を理解する力	4	相手側の様子と日本の様子を比較して、良い点や改善すべき点を見つけ、議論をしていた。相手国だけでなく、世界各国の様子にも目を向け、調べていた。
主体的に考え行動する力	5	議論を通して自分たちで考えたこと(効果的な募金活動の方法)を行動に移すことができた。自己の生活を見直し、食べ残しがないようにしたり、節約を心がけたりなど、自分にできることに取り組むようになった。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	4	相手側の考えを聞く中で、これまでと異なる視点から議論を交わすことができるようになった。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	3	相手側の考えを聞く中で、課題に対する意識や取組の違いを知り、刺激となるが多かったようである。相手校との意見交換がもっとできれば、より力を高められたと思う。
想いを表現する力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	議論したことをどうすればより良く表現できるか協力しながら考え、制作していた。